

日本語学会 2021 年度秋季大会（オンライン開催）

2021.10.31

ワークショップ 0（ゼロ）

日本語史研究における洋学資料の活用例

企画担当・講師 櫻井豪人（茨城大学）

コメンテーター 橋本行洋（花園大学）

司会 米谷隆史（熊本県立大学）

0. 「ワークショップ 0（ゼロ）」について

「※ワークショップ 0 は、日本語学会の今後の開拓分野を示すという目的をもって企画するものです。日本語研究の隣接領域や日本語学会では発表応募の少ない分野を積極的に取り上げ、日本語学会の大会が多様な研究領域の交流の場となることを企図するとともに、そうした多様な研究領域からの発表応募を促すことをめざします。」（日本語学会ウェブサイト「日本語学会 2021 年度秋季大会」より）

1. この企画の主旨と概要

洋学資料研究は、昭和二十八（1953）年に上野図書館で 3,630 冊の江戸幕府旧蔵蘭書が発見されたのを機に、昭和戦後を中心として活発に行われた時期があった。洋学資料研究を行う研究者は、歴史学や医学史を中心として人文科学・社会科学・自然科学の様々な分野にまたがっており、国語学（日本語学）の研究者もそこに加わっていた。

しかし、平成の時代を経て令和の現在に至るまで、かつての研究熱は次第に低下して行き、研究者の高齢化や他界により、研究者人口も概ね減少傾向にあるように見受けられる。日本語学の分野においてもそれは同様であるように思われるが、その一方で膨大な数の洋学資料が現存しており、十分に活用されていない資料が多く存在するように思われる。

そこで本ワークショップでは、洋学資料が少しでも多くの日本語研究者に利用されるよう、いくつかの資料を紹介し、日本語史研究における活用例を提示する。

2. 洋学の研究分野と洋学資料の分類

洋学の研究分野…地理学・天文学・物理学・医学・薬学・生物学・化学・兵学・歴史学・法学etc.

→語学はその前提。すなわち、あらゆる洋学者が接した研究分野である。

- ・使用言語による洋学の分類…蘭学・英学・仏学・独逸学・（魯西亜学）。
- ・洋学資料を扱う研究者の専門分野…歴史学・医学史・天文学史・化学史・法学・語学など様々。
- ・関連学会（洋学史研究を中心としているものに限る）…蘭学資料研究会（解散）、日蘭学会（解散）、洋学史学会、洋学史研究会、日本英学史学会、日本仏学史学会、実学資料研究会など。

洋学資料の分類

江戸時代に行われた洋学に関する著作群を「洋学資料」と呼ぶが、その内容は多岐にわたる。

内容による洋学資料の分類

洋学には様々な研究分野があるので、様々な分野の書物が存在する。(地理学書・天文学書・医学書…。)

語学書もその一つである。いずれの分野の資料も、日本語が書かれていれば全て日本語史研究の対象となる。

語学書の分類 (日本語史の研究対象としてよく取り上げられるのは、単語集・辞書・会話集・文法書。)

- ・ **入門書**…語学の基礎的事項や学習方法等が記されている。『蘭学階梯』『官版洋学便覧』など。
- ・ **綴字書**…アルファベットの書き方、綴り方(および発音)を学ぶ。『洋学指針』『英語階梯』など。
- ・ **単語集**…基本的な単語を覚える。『蛮語箋』『英語箋』『三語便覧』『英吉利単語篇』など。
- ・ **辞書**…わからない語の意味を調べる。『波留麻和解』『ドゥーフ・ハルマ』『英和对訳袖珍辞書』など。
- ・ **会話集**…日常会話を身につける。『英吉利会話篇』『英蘭会話訳語』など。
- ・ **文法書**…文法を身につける。『和蘭語法解』『訳和蘭文語』『英文鑑』など。
- ・ **読本**…欧文を読解する能力を身につける。『西洋武功美談』『英語訓蒙』など。

編著者の国籍による洋学資料の分類 (例示は語学書に限る)

日本人による著作・西洋人(蘭・英・米・仏・独など)による著作・中国人による著作に分けられる。

一口に「洋学資料」と言っても、日本人によるものと外国人によるものでは性質がかなり異なる。

- ・ **西洋人による日本語学書** (資料の性格はキリシタン資料に近いが、音韻史研究に用いられることは少ない。)
【単語集】メドハースト『英和和英語彙』、【会話集】アーネスト・サトウ『会話篇』、【辞書】ヘボン『和英語林集成』、【文法書】アストン『日本語口語文典』『日本語文語文典』など。
- ・ **西洋人による中国語学書** (日本語史研究では英華字典がよく参照される。)
【辞書】モリソン・ウィリアムズ・メドハースト・ロプシャイトによる各英華字典、【読本・啓蒙書】レッジ『智環啓蒙』など。
- ・ **中国人による西洋語学書** (中国洋学書)
【単語・会話集】清・子卿『華英通語』など。

キリシタン資料と洋学資料の比較

- ・ キリシタン資料は外国人と日本人の協力のもとに編纂されている著作が大半を占めるが、洋学資料は日本人のみによって編纂されている著作が大半を占める。
- ・ キリシタン資料は宗教書が一定の割合を占めるが、洋学資料には宗教書が少なく、自然科学を中心に、社会科学や人文科学の諸分野の著作が数多く存在する。
- ・ キリシタン資料は残存数が少ないので、現存資料はほぼ把握されているが、洋学資料は膨大な種類・数の残存資料が存在し、兵学のようにどのような資料が存在するのか十分に把握されていない分野もある。
- ・ キリシタン資料は音韻史研究によく用いられるが、洋学資料が音韻史研究に用いられることは少ない。

3. 日本語史研究における洋学資料の活用法

- ・ **語誌研究・翻訳語研究**…日本語を含んでいる全ての洋学資料が研究対象となる。
- ・ **漢字字体・用字法研究**…漢字を用いて書かれている洋学資料全てが研究対象となる。
- ・ **口語日本語研究**…主に西洋人が著した日本語会話書が対象となる。(一部方言も含む。)
- ・ **日本語文法研究史**…主に文法書が研究対象となる。(蘭文典・英文典等の日本文典への影響。)
- ・ **西洋語音訳研究**…蘭語・英語等を漢字で音訳している資料全てが研究対象となる。
- ・ **欧文翻訳文体研究**…蘭文や英文等を日本語に翻訳したもの全てが研究対象となる。

3. 0. 発表者（櫻井）のこれまでの研究（洋学辞書・単語集の基礎的研究）

・資料研究と資料整備

洋学資料を日本語史研究に利用する際には、その資料がどのように編まれたのかを明らかにし、そこに含まれる日本語がどのような性質のものなのかを把握しておく必要がある。（資料研究の必要性。）

また、実際に日本語史研究を行う際に、どこにどのような言葉があるのかを検索できるようにしておくくと便利である。（資料整備の必要性。）

発表者はこれまで、これらの観点に基づき、**洋学単語集**と**洋学辞書**について資料研究と資料整備を行ってきた。（右の系統図参照、発表者作成。）

洋学単語集：西洋語を学習するために、基本的な単語を覚えるための学習書。多くの場合意義分類体をとっており、辞書に比べて小規模となっている。

洋学辞書：西洋語で書かれた文献を読解する際に、意味のわからない語を検索するための学習書。多くの場合アルファベット順で見出し語が配列されており、単語集に比べて大規模となっている。

・発表者のこれまでの研究

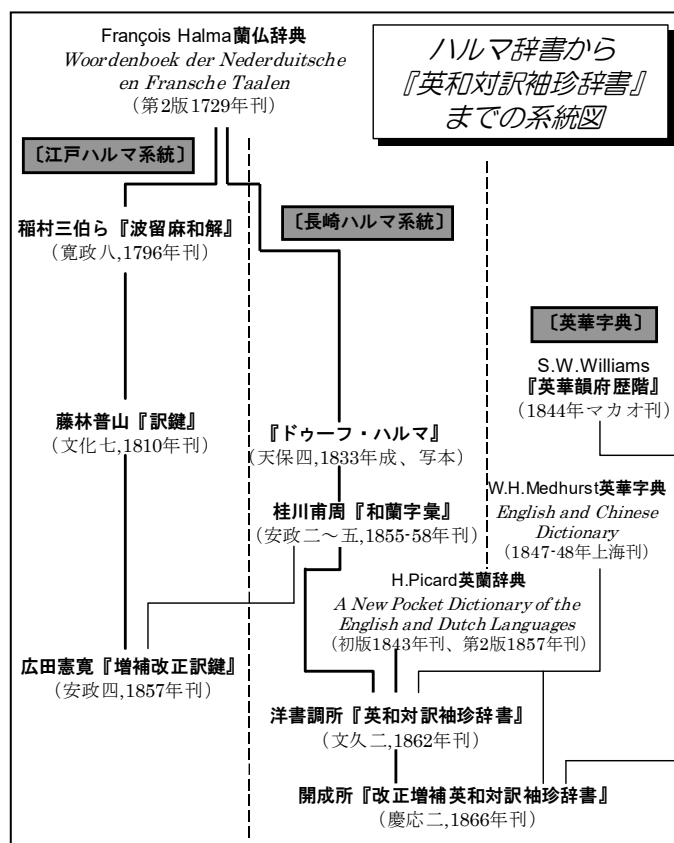
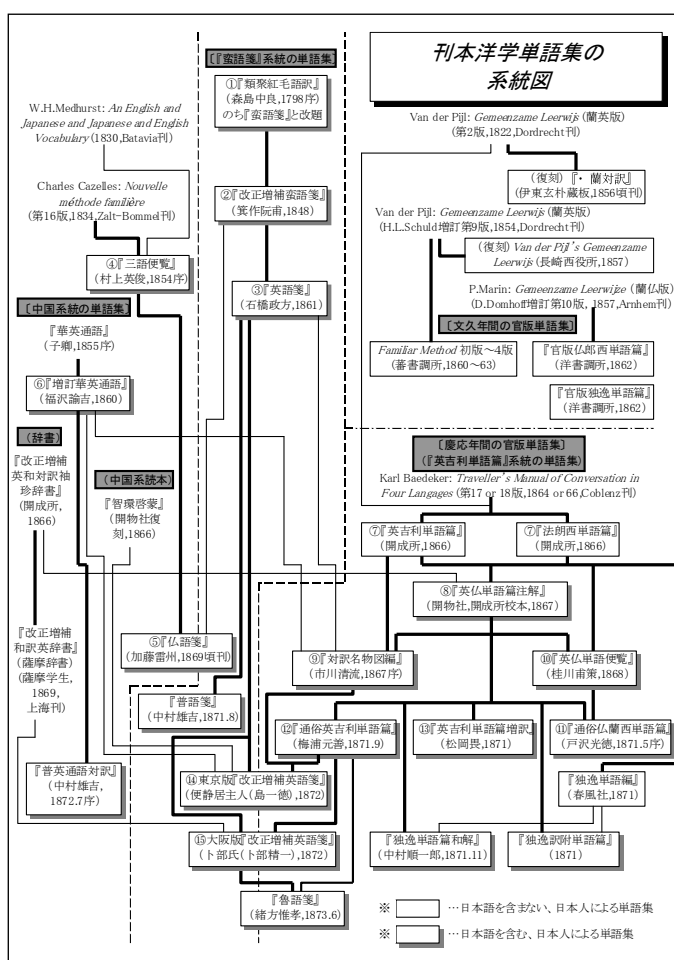
1992年頃～現在：洋学単語集の研究・整備。

2001年頃～現在：洋学辞書の研究・整備。

2007年3月 刊本として日本初の英和辞典である『英和对訳袖珍辞書』、およびその改正増補版である『改正増補英和对訳袖珍辞書』の草稿の一部が発見される。（古書肆・名雲書店より販売、同年7月にその影印が出版される。）

2011年11月 日本語学会 2011年度秋季大会（於高知大学）シンポジウム「近代語研究の方法と資料」でパネリスト発表（『和蘭字彙』電子テキスト化による『英和对訳袖珍辞書』初版の訳語の研究）。この時に『和蘭字彙』電子テキストの作成を開始した。

2014年から科研費により『波留麻和解』『訳鍵』『増補改正訳鍵』の電子テキスト化を行い、2021年現在までにそれらがほぼ完成した。



3. 1. 語誌研究・翻訳語研究での洋学資料の活用例

『波留麻和解』（寛政八 1796 年刊）の電子テキスト化作業の過程において、近代漢語の定着過程を垣間見ることができる記述がいくつか見られた。（のちに近代漢語として使われるようになった漢語が、『波留麻和解』では訓読みされている例が見られる。）以下にその一例を示す。（論文投稿中。）

・濾過ス／濾過スル

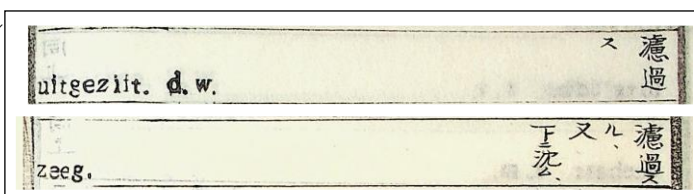
【前提】「濾過」は近世中国語で使われていた語である。（明・李時珍『本草綱目』などに用例あり。）

日本語では蘭学で使われるようになってから定着した語と見られる。

【現代の辞書類の記述】『日本国語大辞典』第二版（小学館 2000-02 年）での「濾過（ろか）」の初出用例は、『舍密開宗』（1837-47）の用例。『大漢和辞典』修訂第二版（大修館書店 1989-90 年）の「濾過」の項では「こす。」という意味のみが記され、用例が挙げられていない。『漢語大詞典』第二版（（上海）漢語大詞典出版社 2001 年）でも、「濾過」の項では郭沫若（1892-1978）の『文芸論集』の用例のみが示されている。

【『波留麻和解』の「濾過」】…6 例、うち「濾過ス」が 4 例、「濾過スル」が 2 例。

- ・「濾過ス」uitgezift. d.w.濾過ス／ziften. w.w.濾過ス／zifting. z.v.濾過ス／zijgen. w.w.濾過ス
- ・「濾過スル」zeeg. 濾過スル。又 下ニ沈ム。／builzak. 濾過ル袋（zak の子見出し、早大本は「濾過スル袋」）



「濾過ス」は「こしすごす」と訓読みしていた。

『波留麻和解』（東京大学総合図書館 A100：1348）

※「濾過ス」が「こしすごす」と訓読みしている可能性が高いことは、以下のような例から類推される。

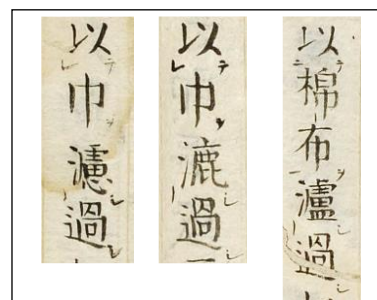
overgekookt. d.w.煮過ス／overgezoden. d.w.煮過タ／overkookten. w.w.煮過ス／overloopen.煮過ス／overlopen.（中略）又 煮過ス。（以下略）／overzieden.煮過ス／verkookten.煮過ス／verzieden.煮過ス／verzoden.煮過ス／verzooden. d.w.煮過ス／overgewogen. d.w.秤ヲ重クカケ過ス／overgewoogen.重ク秤シ過ス／verlooren gaan.行過ス

→『波留麻和解』編纂時において、「ろか」という漢語がまだ定着していなかったことを示唆している。

※『波留麻和解』以前に「濾過」は「こしすごす」と訓読みされていたことを示す用例がある。

大槻玄沢自筆稿本『蕪録』（天明八 1788 年成、たばこと塩の博物館蔵）

「巾ヲ以テ濾シ過シ」（下 7 オ）、「巾ヲ以テ漉シ過シ」（下 9 ウ）、「棉布ヲ以テ漉シ過シ収メ貯フ」（下 10 ウ）（原附訓点漢文、下線は発表者。）



大槻玄沢自筆稿本『蕪録』（たばこと塩の博物館蔵）

・その他、『波留麻和解』に見られる近代漢語の訓読み例

- ・凝固...lebbig.牛乳ノ凝固メル味ノ如キ悪味
- ・結合...aaneen knopen. w.w.糸ナドツナグ。結合セル。
- ・思考...gepeinst. d.w.思考フ
- ・圧搾...uitdrukken. w.w.壓搾ル
- ・嫌悪...schennis. z.v.嫌悪ム人／vervloeker. z.m.嫌悪ベキ人／wraakbaar.嫌悪テ居ル
- ・遠隔...verafgelegenheid.遠隔ツ
- ・贈与...overgeeven. w.w.贈與フ
- ・告知...aankondigen. w.w.告知セル

→これらの訓読み例は、後に近代漢語として使用されるようになった語が、『波留麻和解』（1796 年刊）の段階ではまだ漢語として定着していなかったことを示唆しているものと見られる。

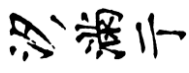
3. 2. 漢字字体・用字法研究での洋学資料の活用例

洋学資料は学術書としての性格が強いため、漢字が楷書体で書かれている資料も多いが、漢籍や仏典に書かれている字体の影響を受ける度合いが少なく、近世日本での楷書体の実態を反映している度合いが高い。


以下は『和蘭字彙』の楷書体の例である。(図版は杉本つとむ解説『和蘭字彙』早稲田大学出版部 1974 年による。) 新井白石『同文通考』(正徳年間 1711-16 年成、宝暦十 1760 年刊)や太宰春台『倭楷正訛』(延享五 1748 年成、宝暦三 1753 年刊)に掲載されている字については注記した。(杉本つとむ編『異体字研究資料集成』一期一卷・一期四巻、雄山閣出版 1973 年による。)[(I)]等は JIS 漢字水準を示す。

干 (I・カン・ほす) ← 𣎵 (III・チョク) (『倭楷正訛』5 オ)

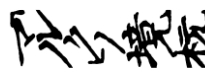
乾  (『和蘭字彙』G24 オ)


沙  (『和蘭字彙』G89 ウ)

訴 (I・ソ・うったえる) ← 𡇗 (III・キン・よろこぶ) (『同文通考』誤用、四 17 オ、𡇗^{ウツタヘノ} 俗ノ訴ノ字○^{ウツタヘ} 音銀恭謹ノ貞) (原附訓点漢文、以下同様。)

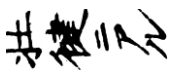
訴  (『和蘭字彙』G22 オ)

杭 (I・コウ・くい) ← 𣎵 (JIS 外・ゲン・木の名)・𣎵 (IV・ゴツ・枝の無い木) (『同文通考』國訓、四 8 オ、𣎵^キ (中略) 𣎵又訛テ𣎵ト作 𣎵ハ音元木ノ名)

𣎵  (『和蘭字彙』M18 オ)

𣎵  (『和蘭字彙』O8 オ)

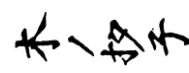
健 (I) ← 健 (IV) (『同文通考』譌字、四 18 ウ、健^{タケン} 健也、『倭楷正訛』6 オ)

健  (『和蘭字彙』G104 オ)

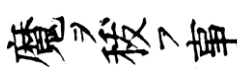
旗 (II・国字)《旗》← 旗 (III) (『同文通考』譌字、四 20 ウ、旗^{ハタ} 旗也)

軍旗  (『和蘭字彙』O135 ウ)

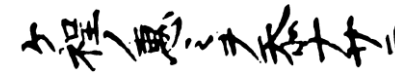
杓 (I・シャク) ← 杓 (IV・シャク) (『同文通考』譌字、四 20 ウ、杓^{シャク} 杓也)

木ノ杓子  (『和蘭字彙』P43 オ)

祓 (II) ← 祓 (II) (『同文通考』譌字、四 21 オ、祓^{ハラヘ} 祓也)

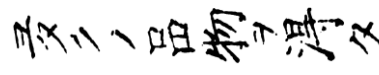
魔  (『和蘭字彙』D61 オ)

程 (テイ・ほど) (I) ← 程 (『同文通考』譌字、四 21 ウ、程^{ホド} 程也)


程  (『和蘭字彙』E23 ウ)

多 (I) ← 𣎵 (II) (『同文通考』譌字、四 19 オ、𣎵^{ヲ、シ} 多也)

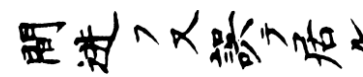
得 (I・トク・える) ← 得 (IV・トク) (『同文通考』省文、四 24 ウ、得^{トク} 得也、『倭楷正訛』附録省文集 24 オ)

𣎵  (『和蘭字彙』A8 ウ)

廟 (I) ← 廟 (IV) (『倭楷正訛』附録省文集 25 オ)

廟  (『和蘭字彙』K15 オ)

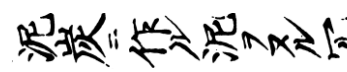
進 (I・イ・ちがう) ← 進 (『同文通考』省文、四 23 ウ、進^{カコム} 進也、『倭楷正訛』附録省文集 20 オ)

進  (『和蘭字彙』F3 オ)

殼 ← 壳 (『倭楷正訛』附録省文集 21 オ)

卵ノ壳  (『和蘭字彙』E27 オ)

穴 (ケツ・あな) ← 元 (ジョウ) (『倭楷正訛』8 ウ)

泥炭  (『和蘭字彙』V15 オ)

商 (I・ショウ) ← 商 (IV・テキ)

衣裳商賣  (『和蘭字彙』K47 ウ)

派 (I・ハ) ← 派 (JIS 外・コ)

立派  (『和蘭字彙』F10 オ)

祝 (I・シュク) ← 祝

祝儀  (『和蘭字彙』B27 ウ)

洋学資料は近世日本の用字法研究にも利用できる。(以下は櫻井豪人 2018「近世楷書体文献の電子テキスト化における漢字字体処理について—『和蘭字彙』を例に—(続編)」『茨城大学人文社会科学部紀要 人文コミュニケーション学論集』2より転載。論文中の図版は杉本つとむ解説『和蘭字彙』早稲田大学出版部 1974年による。)

8. 近世期によく見られる通用字の使用分布

以下は近世期によく見られる通用字の例である。古文書においては常識的な表記であるが、使用の分布を示した研究はほとんど見られないので、『和蘭字彙』における分布を示していく。

(中略)

8.2. 姓と性の通用

姓 (I・セイ・ショウ・かばね)・性 (I・セイ・ショウ・さが)

『和蘭字彙』には「百姓」や「素性」に対して「百性」「素姓」といった表記がなされる箇所が時折見られるが、それらは近世の古文書においてよく見られる表記であり、現代の我々からすれば誤字のように見えるものの、当時の慣習からすれば誤字とは言えない。しかし、用例数を数えてみると、どのような熟語でも相互に入れ替え可能であるわけではなく、その二つの熟語に限って通用する様子が窺える(表13)。『和蘭字彙』では「百性」が3例、「素姓」が1例見られるのみであり、他の大半の「性」を含む熟語は「姓」と混ざることがない。

「百性」と「素姓」については、それぞれ「百性《百姓》」「素姓《素性》」と別表記挿入しておく。

表13 『和蘭字彙』における姓・性

字体	分類	用例数	具体的用例と内訳
姓	百姓	21	百姓21
	素姓	1	素姓正シキ1
	せい・かばね	1	姓1
	その他の熟語	1	小姓1
性	百性	3	百性3
	素性	4	素性4
	せい・さが	30	言語ノ性、烈シキ性ノ人など
	その他の熟語	109	性質37、性根22、性急17、性替へ11、性理5、同性3、無性3、性得2、陰性2、本性2、性骨1、性心1、性体1、気性1、堪忍性1

なお、「性」の「その他の熟語」のうち、「無性」の3例は「ぶしょう」と読むべきもので、現代であれば「不精」「無精」と書くべきものである(図版12)。「ぶしょう」については次項でも触れるが、これら3例の「無性」は「無性ニ《無精ニ・不精ニ》」などと別表記挿入しておく。

図版12 『和蘭字彙』における「無性」(ぶしょう)の3例

性(無性・K28オ)	
性(無性・Q9オ)	
性(無性・W88オ)	

8.3. 精と情の通用

精 (I・セイ・ショウ・くわしい)・情 (I・ジョウ・セイ・なさけ)

「精」と「情」の関係も同様である。浅野1987に指摘があるので引用する。(p.108)

【情と精】『日本永代蔵』五の四に「明暮油断なく情に入」、『世間胸算用』五の二に「手習を情に入よ」とある。この「情」の字も、現在の用字意識から「精」の誤記としてはいけない。当時の通用字体は、「情に入る」であったのである。『志不可起』七（延宝・天和ごろ）に「せいをいだすハ精を出すト書き、せいをいるゝハ情に入るゝト書くべき也」と見えるからである。しかし、この表記の規範は一般に広く通用したものではなく、「情」と「精」の混用が行われている。『風流曲三味線』六の一（宝永三1706年）には、「御精に入られ」とある。また、「情出す」（『好色二代男』八の二）、「情を出しければ」（『分里艶行脚』四の二）、「情出す躰」（『役者色仕組』二の一、享保五1720年）と見え、「情」と「精」との混用を指摘できるのである。

浅野晃1987「浮世草子の漢字」『漢字講座』7（明治書院）

上記の引用は「精を出す」といった表現について論じているが、『和蘭字彙』ではその漢語表現である「出精（しゅっせい）」でも同様の通用が見られ、「出情」と書かれる例が多く存在する（図版13・表14）。「出精」は現代においてあまり使われなくなった言葉であるが、ほぼ「努める」や「頑張る」に相当する語である。その反対の意味の語は「不精・無精（ぶしょう）」であるが、それも現代では「不精者・無精者」「筆不精・筆無精」といった定型表現で用いられることが大半であろう。『和蘭字彙』においてはそれら「不精・無精」の文脈でも「不情」と書かれる例が見られ、「出情」や前項で示した「無性」とともに、「しゅっせい」や「ぶしょう」であることに気づかれにくい。

図版13 『和蘭字彙』における精・情の例

精（出精・B109オ）	出精ニテ仕事スル
情（出情・N28ウ）	情古事ニ出情スル
精（精出す・A16ウ）	筆ヲ精出スル
情（情出す・H11オ）	情出ニテ仕事スル
精（不精・L71ウ）	不精
情（不情・D26オ）	不情者
精（無精・O51オ）	無精

しかしその一方で、「精気」「精液」「精製」などは「精」、「情欲」「愛情」「苦情」などは「情」ときちんと書き分けられている（表14）。「精」と「情」のどちらでも書いて良いものは、「出精（出情）」「不精・無精（不情・無情）」「精を出す（情を出す）」など、一部の語に限られる様子が見て取れる。このように、『和蘭字彙』における用字法の分析は、通用の範囲を知ることにおいても有効である。

なお、「情」の「その他の熟語」のうち、「根情」の4例は現代であれば「根性」と書くべきものである（図版14）。『和蘭字彙』において「根性」は見られなかったが、「根情」については「根情ノ《根性ノ》」などと別表記挿入しておく。

表14 『和蘭字彙』における精・情			
字体	分類	用例数	具体的用例と内訳
精	出精	33	出精、出精スルなど
	精（を）出す	28	精出ス、精ヲ出スなど
	不精・無精	27	不精18、無精9
	その他の熟語	39	精気10、精液7、精製5、精密4、精鋸4、精勤3、精神2、精粗1、精脈1、製精1、精進1
	せい	2	精2
	訓読み	5	精キ3、精シク1、精ニ1
情	出情	10	出情、出情スルなど
	情（を）出す	1	情出シテ仕事ヲスル1
	不情・無情	1	不情者1
	その他の熟語	83	情欲27、愛情11、苦情15、色情9、 根情 4、実情3、人情3、歎情2、情事1、情愛1、気情1、懇情1、真情1、直情1、風情1、蒙情1、欲情1
	なさけ・じょう	50	情、情ナキ、情深キなど

図版14 『和蘭字彙』における「根情」の4例

情（根情・G55オ）	根情ノ意
情（根情・H55ウ）	夫ノ字ヲナキ根情ノ
情（根情・K104オ）	終根情ヲナキ人
情（根情・O145ウ）	根情ノ愛ミ老ノ始

3. 3. 口語日本語研究・日本語文法史研究での洋学資料の活用例

（その1）アーネスト・サトウ『会話篇』（Kuaiwa Hen、明治六 1873 年横浜刊）

アーネスト・サトウ Ernest Mason Satow (1843-1929) は幕末明治期に来日したイギリス人外交官。『会話篇』は英国外交官が会話日本語を学ぶために編まれた学習書で、当時の口語資料として高い価値を持つ。

全体の構成

- ・Part I（洋装本 B6 版 1 冊、欧文金属活字版）：見開き左頁にローマ字書き日本語本文、右頁にその英訳。冒頭にサトウ本人による序文（PREFACE）、目次（CONTENTS）が付されている。
- ・Part II（洋装本 B6 版 1 冊、欧文金属活字版）：Part I の本文に対する注釈（Notes、pp.1-166）。末尾に語形変化表（PARADIGMS、pp.167-188）、日本語索引（INDEX、pp.189-201）が付されている。
- ・Part III（和装本中本（B6 版）2 冊、和文整版薄様紙、内題「〔春秋／雑誌〕會話篇」）：和文日本語本文。一冊目（1～14 章）は平仮名文、二冊目（15～25 章）は漢字平仮名文。冒頭に「^{ひらがなならびにかたかな}平仮名並片仮名」あり。

『会話篇』を使いやすくするために（資料整備）

- ・Part II(注釈)の日本語訳…櫻井豪人 2009-2013「アーネスト・サトウ『会話篇』Part II 訳注稿(1)～(7)（補遺）」『茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集』7～14。
- ・『会話篇』対照表（仮称）の作成…Part I のローマ字表記による日本語を読みやすくするため、「現代表記案」を作成するとともに、Part I と Part III を同時に読めるようにする。（Microsoft Word で作成。）

EXERCISE I.

COMING AND GOING.

1. Kinô kimashita.
2. Kinô kita.
3. Ashita ikô to omô.
4. Ashita ikô ka to omô.
5. Mō sukoshi nochi 𐵜 o idé nasai.
6. Ano onna wa sakujitsu ikimashita.
7. Kinô itta.
8. Mairimashô ka.
9. Dôzo ikitai to omô.
10. Dôzo ikitai to omotta.
11. Itsu mairimashita.
12. Ototoi maitta.
13. Kiô kara mikka mē ni kaērô to omô.
14. Kiô kara mikka mē ni tabun kaēru d'arô to omô.
15. Sugu ni motté koi.
16. Ittē motté koi.
17. Motté kaéré.
18. Uchi é motté ikimashita.
19. Senkoku shito ga kita.
20. Senkoku kita shito.
21. O idé nasaru ka.
22. Ashita o idé ka.
23. Ashita wa mairaremai.
24. Ototoi kita.

1. I came yesterday.
2. (Same, in a less polite form.)
3. I am thinking of going to-morrow.
4. I think I may perhaps go to-morrow.
5. Come presently, if you please.
6. That woman went yesterday.
7. I went yesterday.
8. Shall I (or, we) come (or, go); will he come, do you think?
9. I very much wish to go.
10. I very much wished to go.
11. When did he come?
12. He came the day before yesterday.
13. I think of returning on the third day from to-day.
14. I think he will most probably return on the third day from to-day.
15. Bring it immediately.
16. Fetch it.
17. Take it back.
18. He took it home; he has taken it home.
19. A person came a little while ago.
20. The person who came a little while ago.
21. Will you (or, he) come (or, go); is he, are you; does he reside, do you reside?
22. Are you coming (or, going) to-morrow?
23. I shall probably not be able to come (or, go) to-morrow.
24. He came the day before yesterday.

アーネスト・サトウ『会話篇』Part I 本文冒頭（発表者蔵本）

※朱線は発表者よる。以下同様。

NOTES.

EXERCISE I.

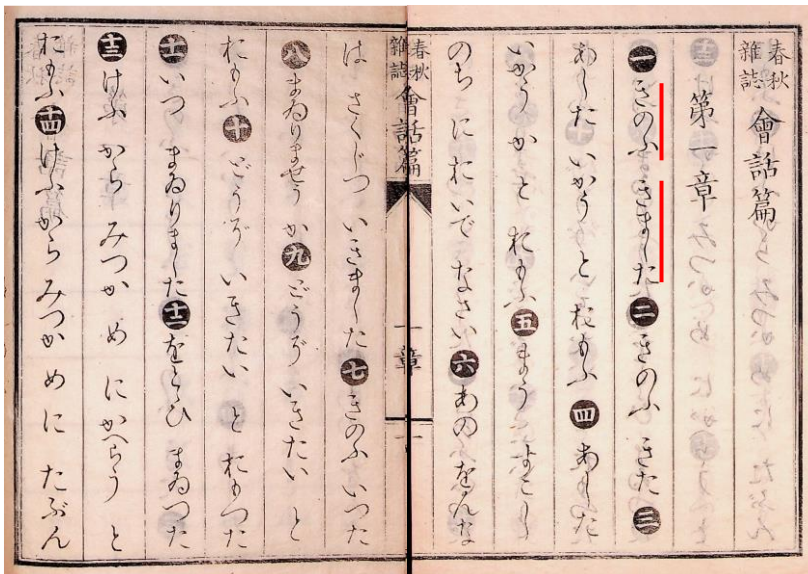
- 1.—Kino. Yesterday. Probably a contraction of *saki no hi*, the previous day. Syn. *sakujitsu* (c).*
 - Kimashita. Came. Past Indicative of *kimasu*, polite form of the irregular verb *kuru*, to come, formed by adding the old verb *masu*, to be, to the root *ki*. Vide paradigms of *masu* and *kuru*.
- The polite forms in *masu* are used for the first person and third persons, when the first and third persons are the equal or inferior of the person addressed. But for the second and third persons, when they are the superior or equal of the speaker, the former is discarded in favour of another verb, or the same verb is used preceded by *o* and followed by *nasaru*. For instance *kimasu* would be used for the first and third persons of both numbers, in the first two cases above mentioned, while *o idé nasaru*, or *irassharu* and their corresponding forms in *masu* would be employed

(c) Denotes that the word is of Chinese origin.

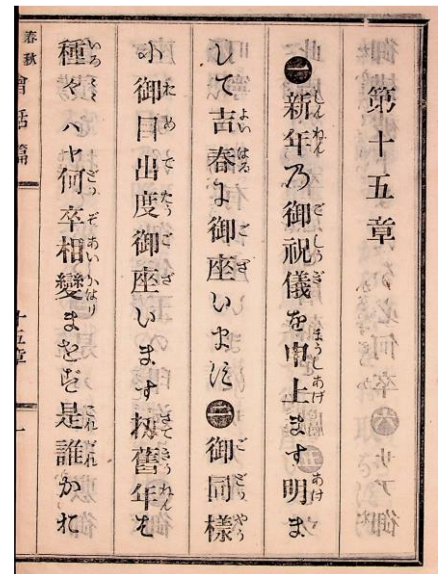
in the last two. In addressing a person slightly one's inferior the pronoun *oma* may be introduced before the sentence *kinô kimashita* (and so in others) the first time the individual is addressed, but it may be omitted in all other cases except where it is emphatic in English. Generally speaking, it may be said that the Japanese language abhors the use of pronouns.

- 2.—Kita.—Came. Past Indicative of the verb *kuru*; used familiarly.
- 3.—Ashita. Tomorrow. The proper meaning of this word is morning, and educated persons use *asu* instead, as in *asu no asa*, tomorrow morning; syn. *miôchô* (c). The syn. of *ashita* in the sense of tomorrow is *miônichi* (c). Iko, will go. Future of *yuku*, pronounced *iku* in Yedo. To. Equivalent to the English conjunction, that. Strictly speaking, it is a particle denoting that the word or phrase preceding it is the object of thought or speech. Omo. Written *omofu*. To think. Vide paradigm. The literal meaning of the whole sentence is [I] think that [I] shall go tomorrow.
- 5.—Ka. A dubitative particle. At the end of a sentence it has the force of the note of interrogation. It here signifies that the speaker is not sure whether he will go or not. Lity. [I] think shall [I] go?
- 5.—Mo. Yet, already, now, and when a negative follows it, any longer. Examples; *mô jiuni ji des' ka*, is it already twelve o'clock? *mô kimashita*, he is here now (after one has been waiting); *mô gozaimasen*, there are not any longer=there are no more; *mô tamaranai*, I can't

アーネスト・サトウ『会話篇』Part II 本文冒頭（発表者蔵本）



アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅢ『春秋雑誌会話篇』
本文冒頭（発表者蔵本）



アーネスト・サトウ『会話篇』
仏語版 PartⅢ『春秋雑誌会話篇』
第15章本文冒頭（発表者蔵本）

PartⅡ第1章2番（櫻井豪人 2009「アーネスト・サトウ『会話篇』PartⅡ訳注稿(1)」より）

注釈 (NOTES.)

第1章 (EXERCISE I, p.1)

1. きのう. yesterdayの意。恐らくは「さきの日」the previous dayが縮約されたもの。同義語「昨日」（漢語）。

来ました. cameの意。不規則動詞「来る」to comeの丁寧形「来ます」の直説法過去形。語根「来」に古語の動詞「在す」to beを加えて作られたもの。「ます」と「来る」の語形変化表（訳者注：PartⅡのp.170,171）を見よ。

「来ます」による丁寧形は一人称や三人称の行為に対して用いられるが、その場合の条件として、一・三人称が聞き手（訳者注：二人称のこと）と対等である場合か、聞き手よりも目下である場合に限られる。これに対し、二人称や三人称が話し手（訳者注：一人称のこと）より目上または対等の場合、彼らの行為に対しては先に述べた方法（訳者注：「来ます」による丁寧形）を取らずに別の動詞に置き換えて用いるか、または同じ動詞の前に「お」を付け、後に「なさる」を付けた形で用いる。例えば、上記の最初の二つの場合（訳者注：一・三人称が聞き手と対等の場合、もしくは目下の場合）では、一人称や三人称に対して、単数でも複数でも「来ます」が使われ、後の二つの場合（訳者注：二・三人称が話し手より目上の場合、または対等の場合）では、「来ます」をつけた形の代わりに「おいでなさる」または「いらっしゃる」が用いられる。やや目下の者に対して、特に最初に話し掛ける際には、「きのう来ました」という文（他の文でも同じ）の前に「お前」という代名詞を前置きして話し始める場合もあるが、英語においても強調されるような場面を除いて、そのような代名詞は省略される。概して日本語は、代名詞の使用を嫌う言語であると言えよう。

2. 来た. cameの意。動詞「来る」の直説法過去形。親しい間柄に用いられる。

・「恐ろしい」のようなものがそのままの形で連用修飾することについて（第 2 章 29 番）

章・番	Part I 日本語（現代表記案）	Part I 英語	Part III (『春秋雑誌会話篇』)
2-29	<i>Osoroshii takai mon'da.</i> (恐ろしい高いもんだ。)	It's fearfully dear.	おそろしい たかい もん だ
2-30	<i>Takaku gozaimasen'.</i> (高く御座いません。)	It's not dear, sir.	たかく ございません
2-31	<i>Iya, tohōmonai takai.</i> (いや、 <u>途方もない</u> 高い。)	Yes, it is; it's unconscionably dear.	いや <u>とほうもない</u> たかい

Part II 日本語訳
(櫻井 2009)

29. 一 恐ろしい, fearful の意で、「恐れる」to fear と同じ語根から来た語。Hoffmann の p.119, §12 (訳者注: 正しくは §16) を参照。この場合、対訳の英文のように、この語根の副詞 (訳者注: 「恐ろしく」のこと) を用いるべきではないかと思われるかもしれないが、日本語の文法では必ずしもそうする必要はない。もんは「もの」thing, article のこと。

・自分の行為に「御」をつけ、同等の者に対して「沙汰」を用いるような用法について（第 8 章 19 番）

8-19	<i>Go sata itasimashō.</i> (御沙汰致しましょう。)	I will let you know.	ご さた いたしませう
------	-----------------------------------------	----------------------	-------------

Part II 日本語訳
(櫻井 2010)

19. 一 御沙汰; これは、「御」から敬語の意味合いが失われたと見られる場合の一例である。15 番や 16 番の例文において、「御沙汰」は相手側から発せられた語であるが、ここでは相手側に発せられた語である。「沙汰する」は目下の者に対して命令を与えるの意であるのに、誤った類推から、同等の者に対して話す場合にも大抵「御」が前接する。この奇妙な現象は、「無礼」(漢語) rudeness という言葉においても同様に観察される。通常は「それは御無礼でございます」that is rude of you, Sir (無礼じゃないですか) のように用いるが、実際には「御無礼致しました」I have been rude to you (あなたに対して無礼を働きました) のようにも用いられる。

・日本人の発話意図に対する言及（第 10 章 41 番）

10-40	<i>Fransu-go wa owakari nasaimasu ka.</i> (フランス語はおわかりなさいますか。)	Do you understand French?	ふらんすご ハ お わかりなさいます か
10-41	<i>Tadai wa wakarimasen' ga tori-shirabeté mōshi-agemashō.</i> (只今わかりませんが取り調べて申し上げます。)	I don't know now, but I'll inquire and let you know.	たどいま わかりません が とりしらべて まうしあげませう

Part II 日本語訳
(櫻井 2010)

41. 一 取り調べる, to make inquiries (調査する) の意。「取り」to take には強意の働きがあり、took and gave him a beating (彼をぶったたたいた) のような卑俗な言い回しの take に似ている。(訳者注: 第 8 章 16 番にも同様の指摘がある。)「調べる」は to examine の意。この文はしばしば、ただ単に不快な会話を先延ばしにするために日本人が使うもので、その場合には inquiring (調査) しようという気はない。

・「のぼる」「くだる」の基点の変更に対する言及（第 11 章 19 番）

11-19	<i>Kamigata é noboru.</i> (上方へ ^{かみがた} のぼる。)	To go up to Kiōto.	かみがた へ のぼる
11-20	<i>Yedo é kudaru.</i> (江戸へ ^{くだ} くだる。)	To go down to Yedo.	えど へ くだる

Part II 日本語訳
(櫻井 2010)

19. 一 上ると下るは京都 (Kiōto) に上ったり下ったりする場合に用いられたが、これらの用語は恐らくもう江戸を基点にするよう変更されているものと思われる。というのも江戸は、^{とうきよう}東京 (Tōkiō) または ^{とうけい}東京 (Tōkei) Eastern Capital の名のもとに、新たに首都として認められ、君主 (sovereign) の居住地となったからである。

・確信の持てない返答の仕方と、「…したいものです」という言い回しについて (Part II 第 15 章 9・10 番)

※Part II 第 15 章冒頭に「話者は徳川政権下の二人の侍。」とある。

15-8	<i>Toki ni, tsumarani koto wo o hanashi môsu yô des' ga, futsuka no ban ni takara-buné no edzu wo makura no shita é irété sono ban no yumé wo uranaimasu ga, aré wa dô iu imi dé gozaimasu.</i> (時に、つまらない事をお話し申すようです(des')が、二日の晩に宝船の絵図を枕の下へ入れてその晩の夢を占いますが、あれはどういう意味で御座います。)	By-the-bye, it's a ridiculous subject to talk to you about; what is the meaning of putting a picture of the <i>takara-buné</i> under one's pillow on the night of the second, and getting a diviner to expound one's dream?	時に詰らない事をお話し申すようですが二日の晩に宝船の絵図を枕の下へ入れて其ばんの夢を占ますが彼は何言意味で御座います
15-9	<i>Sayô sa, nan'da ka, kû na koto des' ga, mukashi kara no rei de's kara sô yarimasu.</i> (左様さ、何だか、空な事です(des')が、昔からの例ですからそうやります。)	I'm sure I don't know. It's an absurd thing to do, but people do it because it's an ancient custom.	左様サ何だか空な事ですですが昔からの例ですから左様やります
15-10	<i>Watakushi mo dômo bakarashiku omoimasu. Shikashi yoi yumé wo miru to sono toshi wa un ga yoi to iimasu kara, ichi fuji, ni taka san nasubi to ka iu yumé wo mité, daimiô ni demo naritai mon' des'. Hahâ.</i> (私 もどうも馬鹿らしく思います。しかし吉夢を見るとその年は運が良いと言いますから、一富士、二鷹三茄子とか言う夢を見て、大名にでもなりたいものです(des')。ははあ。)	I myself think it's very foolish. People say, however, that if you have a good dream you will be lucky for the rest of the year. It would be nice to dream, say, of one Fuji, two hawks, and three brinjalls, and become a <i>daimiô</i> .	私 も何も馬鹿らしく思ひます乍然吉夢を見ると其年は運が良いと言いますから一富士二鷹三茄子とか言う夢を見て大名にでも成たいものですハハア

Part II 日本語訳
(櫻井 2011)

9. 一 空 (漢語) な, empty (無意味な), vain (無駄な), foolish (馬鹿げた) の意。左様さ, yes の意であるが、確信の持てない様子で言っている。何だかは返事に用いた場合、I don't know の意味となる。日本人は、「何だか」という言葉で what is it と尋ねられた場合、「知らない」という言葉で I don't know と答える代わりに、その質問 (訳者注: 「何だか」) を繰り返して、「何」に強調を置くことによって (訳者注: I don't know と) 答える。直訳は [it] is foolish thing, but because [it] is custom of from antiquity [people] do so.
10. 一 日本人には一つの言い習わしがあり、縁起の良い夢はまず第一に富士山の夢、第二に falcon の夢、第三に brinjall (茄子の実) の夢、第四に privy (便所) の夢、第五に funeral (葬儀) の夢であるという。これを「一富士、二鷹、三茄子、四雪隠、五葬礼」という。ここでの数字は序数と捉えるのが正しいが、多くの人がこれを基数であると捉えている。とか言う; 「と」と「いう」の間に挿入された「か」は、「と」と「いう」という言葉に some such……as (…のようなもの) という意味を与える。(そして (訳者注: 「とか言う」は) しばしば英語における冠詞の役割を担う。) 「馬鹿らしく思います」は「馬鹿らしいと思います」と同じ意味である。(訳者注: 「しかし」以降の) 直訳は but as [they] say that if [one] sees happy dream that year's fortune is good, having seen some such dream as firstly a Fuji, secondly a falcon, thirdly a brinjall, one would like to become say (demo) daimiô. 願望形容詞の後に「もの」がついたこの (訳者注: 「…したいもんです」という) 成句は、本当にそうしたいということの意味することはあまり多くなく、むしろ、もし万一できることならばこうしたいという場合の方がよく用いられる。「もの」は「こと」abstract thing (抽象的な事) の意味を持ち、(訳者注: 「大名にでもなりたいもんです」の) 全体の意味は to become daimiô is a desirable thing (大名になるのは魅力的なことだ) となる。「たい」は、「なり」と同様、to see という動詞 (訳者注: 直前の「夢を見て」の「見る」という動詞をさしている) からもつながっている。二つ以上の動詞が一つの文の中で等位接続されている場合、最初の動詞は通常、分詞として (あるいは時々語根の形で) 現れ、最後の動詞のみ、全ての動詞に同等に適用されるべき活用を受けて現れることになる。

(その2) フィッセル『日本国の知識への寄与』(1833年刊、『日本風俗備考』原本)の「日本語構文法」

フィッセル J.F. van O. Fisscher : *Bijdrage tot de Kennis van het Japansche Rijk* (1833年 Amsterdam 刊)

II 「科学」の章の附録「日本語構文法」

長崎出島の阿蘭陀商館員であったフィッセル(1800-1848)は、文政三(1820)年から文政十二(1829)年まで日本に滞在し、オランダに帰国した後、本書を出版した。

本書の「科学」の章の附録「日本語構文法」は、蘭日対訳の会話集である。オランダ語部分は R. van der Pijl (または P. Marin) の蘭仏対訳単語・会話集 *Méthode familière* (蘭語題 *Gemeenzame Leerwijjs*、版次・刊年不明)の会話の部から取っているものと見られ、そのオランダ語に口語体の日本語訳を付けたもの。欧文直訳的な不自然な部分も少なくないが、近世後期の九州方言(長崎方言か)の影響が見られる点で興味深い。

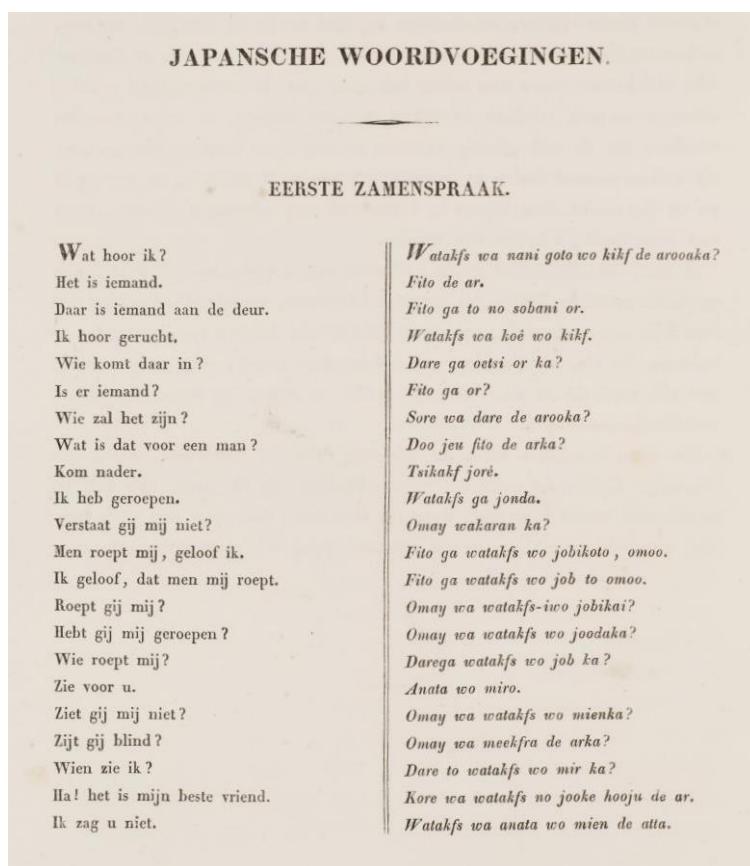
以下の例文は、庄司三雄・沼田次郎訳注『日本風俗備考1』平凡社1978年(東洋文庫326)より抜き出して引用したもの。(ページ数も同書のもの。蘭文は省略し、蘭語綴りのローマ字と漢字仮名交じり文は庄司・沼田1978からそのまま引用。フィッセルの原書では pp.100-115。)

形容詞終止形「か」

- p.153 Watakfs wa soer koto ga nakka. (私はすることがなか。)
p.156 Watakfs wa fimozi ka kfoefoekf ni ar. (私はひもじか。空腹にある。)
p.174 Johodo atska. (よほど暑か。)

形容詞終止形「くある」(形容詞終止形「か」の前段階か)

- p.153 Itatte jokf atta. (至ってよくあった。)
p.158 Watakfs wa kokoga itatte jokfar (私はここが至ってよくある。)
p.160 Omay wa amari kitanakf ar. (お前はあまりきたなくある。[むさぼるノ意])
p.169 Hazimé wa tsoeneni moets kasikf ar. (はじめは常に難しくある。)
p.169 Watakfs anata no joki osiewo katasiké nakf ar. (私、あなたのよき教えをかたしけなくある。)
p.171 Koko jori tookf ar. (ここより遠くある。)
p.172 Watakfs tsito jowakf ar. (私、ちと弱くある。)
p.173 Anofito no maziwari wa itatte konomashikf ar. (あの人の交りは至って好ましくある。)



J.F. van O. Fisscher : *Bijdrage tot de Kennis van het Japansche Rijk* (1833年 Amsterdam 刊) p.100 「日本語構文法」冒頭 (東京国立博物館蔵本)

※「東京国立博物館デジタルライブラリー」から「デジタルコンテンツ無償利用条件」に基づき <https://webarchives.tnm.jp/dlib/detail/3694> より掲載

- p.175 Watakfs wa moo kitsoekf ar. (私はもうきつくある。)
- p.175 Kengo ni wa hanahada jokf ar. (堅固にはなはだよくある。)
- p.176 Inaka wa nats ga jokf ar. (田舎は夏がよくある。)
- p.179 Anofito wa fito no hanas ni hanahada jokf ar. (あの人は人の話すにはなはだよくある。)
- p.180 Anofito wa mada wakakf ar. (あの人はまだ若くある。)
- p.186 Watakfs anata ni katasike nakf ar. (私、あなたにかたしけなくある。)

形容詞終止形「い」

- p.158 Kore wa amari takay. (これはあまり高い。)
- p.176 Watakfs wa joi. (私はよい。)
- p.182 Anata no suddats ni watakfs kanasii. (あなたの^{スツタツ}出立に、私悲しい。)

可能表現「でくる」「でけん」

- p.157 Watakfs nagakf mats koto ga déken. (私、長く待つことがでけん。)
- p.164 Omay wa zjuuboen dekoer ka ? (お前は^{ジューブン}十分でくるか。)
- p.165 Zooseneba omay wo ikite oroets niwa déken. (ぞうせねばお前^(そ)を^(は)生きておる^(うち)つにはでけん。)
- p.167 Omay wa frans go wo duits go ni nawas koto mo dekfoer. (お前はフランス語をドイツ語にな^(お)わすこともでくる。)
- p.167 Watakfs domo wa sorewa hajakf dekfoer. (私どもはそれは早くでくる。)
- p.167 Omay wa sajoo ni sidsoekani juu fito ga wakari koto ga deken hodo ni. (お前は左様に静かに言う。人がわ^(る)かりことがでけんほどに。)
- p.168 Watakfs wakar koto ga dekfoer ka ? (私、わかることがでくるか。)
- p.169 Nanidemo dekfoer. (何でもでくる。)
- p.171 Watakfs wa tookf jukf koto wa deken. (私は遠く行くことはでけん。)
- p.181 Watakfs wa sorewo koi negan, sikasi deken. (私はそれをこいねが^(う)ん。しかし、でけん。)
- p.184 Watakfs anofito ni tsoekaysoer koto wa dekenka ? (私、あの人に使うことはでけんか。)

サ変動詞命令形「せろ」

- p.159 Antonie hai wo sero. (アントニー、拝をせろ。)
- p.162 Zjioo ni sero. (^{ジヨー}自由にせろ。)

終助詞「ゆ」

- p.154 Watakfs ziki ni mata koeju. (私じきにまた来^くゆ。)
- p.162 Watakfs domo wa naniwo sjuka? (私どもは何をし^しゆか。)
- p.185 Watakfs anatani watakfs domo ga koko ni motte or kireynar mono wo miju. (私、あなたに、私どもがここに持^もっておる綺麗なるものを見^みゆ。)

準体助詞「と」

- p.159 Kono hatsi wa darega toka ? (この鉢は誰がと^とか。)
- p.159 Sorewa watakfs noto de ar. (それは私のとである。)
- p.161 Tazits ni jokato wo kaboere. ((「お前の帽子がよくない。」の後に) 他日によかとをかぶ^{かぶ}れ。)